



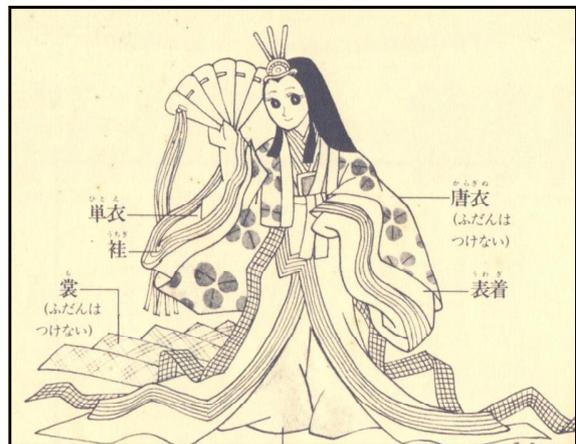
「令和6年のNHK大河ドラマ…光る君へ」

今年のNHKの大河ドラマは「光る君へ」です。平安貴族の紫式部の生涯を描いたドラマのようです。貴族たちが権力闘争を繰り広げた平安時代、有力貴族は天皇家とのつながりを深めるために奔走します。その中でも、貴族藤原氏は娘を天皇家に嫁がせて、娘が生んだ子が天皇になった時に、摂政、関白としてゆるぎない権力を握りました。いわゆる摂関政治です。藤原道長の娘の彰子のお世話をしたのが紫式部です。才女である彼女が書き残した「源氏物語」は有名です。

今の時代は、自分の気持ちを相手に伝えるのにはどうしますか？と尋ねれば、多くの人がSNSやEメールと答えるのではないのでしょうか。平安時代は、自分の気持ちを相手に伝える手段として和歌がありました。57577の文字に自分の気持ちを込めて相手に伝えたのです。

恋心を寄せる人にも、古くからの友達にも、大事に育ててくれた親にも、気持ちを込めて和歌を送りました。紫式部が詠んだ歌が百人一首に収められています。「めぐり逢ひて 見しやそれとも わかぬ間に 雲隠れにし 夜半の月かな」という歌です。この歌は旧友と久しぶりにめぐり会ったのに、ゆっくり話す間もなくあなたを見ることもできずに別れてしまった事を紫式部がまるで雲に隠れてしまった夜中の月のようにだと寂しさを歌にして送ったものです。このように、

当時の人はちょっとした日常のことも歌にして自分の気持ちを相手に伝えました。そう考えると、今のSNSが平安時代の和歌に当たるかもしれませんね。ちょっとした感謝の気持ちや相手への気遣いも頻繁にSNSでやり取りしています。単に、連絡事項を伝えるだけでなく、SNSは平安時代の和歌なのかもしれません。日本人はやはり、心の奥深い気持ちを表現できる日本語をもっているため、文字のやり取りが生活を潤す大切なものになっていると思います。SNSのやり取りで返信がスタンプだけなのは、味気ないものになってしまうと思



います。また、ただ「明日は〇〇です」というような連絡事項だけでは面白味もありません。平安時代は手紙に、花を添えたりしたものです。SNSでも、写真を入れて送信すれば読んでいて楽しくなるものです。SNS全盛期の今の時代、もう一度内容を意識してもよいとおもいます。時には、和歌を送って見たらどうですか。

最後に、紫式部の最後の歌といわれているものを紹介します。

「誰か世に ながらへて見る 書きとめし 跡は消えせぬ 形見なれども」



